

## シンポジウム【HBO医療スタッフのタスク（働き方改革との関連）】

### 当院における高気圧酸素治療業務担当スタッフの教育と課題

西久保祐次<sup>1)</sup> 中堀太喜<sup>1)</sup> 江上智哉<sup>1)</sup>

安部新之介<sup>1)</sup> 竹内正志<sup>1)</sup> 堤 善充<sup>1)</sup>

爲廣一仁<sup>2)</sup>

1)社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 臨床工学室  
2)社会医療法人 雪の聖母会 聖マリア病院 集中治療科

#### 【背景】

高気圧酸素治療（HBO）は高気圧環境、高濃度酸素の利用、密閉空間といった特殊環境下での治療となり、安全な治療遂行には運用システムの構築、専門的知識の取得が不可欠となる。従前の教育システムはローテーションプログラムで評価方法や教育内容に統一されたものが策定されていなかったが、ISOを取得する経緯もあり教育システムの構築を行った。

#### 【方法】

当院には臨床工学技士（CE）44名が在籍し、その内8名が兼任としてHBOに従事している。教育手法は「特定業務資格認定制度」を制定し教育を行っている。この制度は臨床工学業務を「ME室」「透析室」「高気圧酸素治療室」等といった大分類に分け、各大分類に応じた業務内容を資格として制定している。力量評価には「レベル別チェックリスト」を用いて力量を評価し、一定レベル以上を単独業務可能レベルと位置づけている。

#### 【結果】

チェックリストにより、教育進捗状況の把握と共有が可能になった。業務運用は標準業務作業手順書に沿って統一した業務指導と業務遂行を行うことが可能になった。

#### 【考察】

様々な室員が入れ替わりながらHBO業務を遂行している状況では、関与する室員が多くなれば業務手法や教育内容に差異が生じることが懸念される。標準作業手順書は業務標準化に有効と考える。チェックリストを用いることで知識・力量評価の項目や到達目標を統一化が期待できる。

課題としてスタッフ退職に伴い、高気圧酸素治療専門技師は不在となった。従前は業務専従の専門技師が中心的指導を行っていたが、専門知識を有する人材の育成が課題である。教材として専門書からの知識取得に加え、各種関連学会における講習会も活用しつつ知識充実を図る必要性がある。

#### 【まとめ】

力量評価にチェックリストを用いる事で、スタッフ教育の標準化に有効と考える。関連学会の教育コンテンツも活用しながら教育者側の質の担保も早急な課題である。